

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、  
 ご利用いただきたくご案内いたします。  
 弊社におきましては、皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽  
 を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほど、  
 よろしくお願い申し上げます。

敬 白

記

### ■実施日

平成 27 年 7 月 21 日（火）ご依頼分より

### ■新規項目内容一覧

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量	容 器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
1228 (5C120)	I型プロコラーゲン -N-プロペプチド (total P1NP)	血清 0.4	↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	170 ※4	ECLIA	男性 (30~83歳) 18.1~74.1 閉経前女性(30~44歳) 16.8~70.1 閉経後女性(45~79歳) 26.4~98.2 (ng/mL)	 溶血でのご依頼は避けてください(溶血の場合、データが低値傾向となります)。

※4: 生化学的検査(Ⅱ)判断料

●今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を下記期日をもちまして中止させて頂く予定です。

項目コード	項目名	受託中止予定日
1217	インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact PINP)	平成 27 年 9 月末日

群馬臨床検査センター

## ● I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)

骨粗鬆症の治療効果判定、経過観察、診断の補助に有用です。

P1NPはI型プロコラーゲン-N-プロペプチドの略称であり、I型コラーゲンの生成過程で、骨芽細胞から血中に放出される分子量約35,000の蛋白質です。骨芽細胞分化の初期から産生されるため、BAP等の骨形成マーカーよりも早期の骨形成を鋭敏に反映します。

P1NPは、骨粗鬆症治療、特に骨形成促進剤であるPTH製剤(テリパラチド)による治療効果の判定やモニタリング、診断補助に有用と考えられています。

本検査は、P1NPの三量体および単量体を検出しますが、単量体はごくわずかであると推察されているため、三量体のみを検出する従来のIntact P1NPとの相関は良好です。


### ▼ 疾患との関連

- 骨粗鬆症

### ▼ 関連する主な検査項目

- 骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)
- 骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)
- オステオカルシン

### ▼ 検査要項

検査項目名	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)
項目コードNo.	1228
検体量	血清 0.4 mL
容器	X(ポリスピッツ)
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4日
検査方法	ECLIA
基準値(単位)	男性(30~83歳) 18.1~74.1 閉経前女性(30~44歳) 16.8~70.1 閉経後女性(45~79歳) 26.4~98.2 (ng/mL)
検査実施料	170点(「D008」内分泌学的検査の26)
検査判断料	144点(生化学的検査(Ⅱ)判断料)
備考	 溶血でのご依頼は避けてください(溶血の場合、データが低値傾向となります)。

### ●参考文献

日高 好博：医学と薬学70(2)：357~365. 2013. (検査方法参考文献)

日本骨粗鬆症学会 骨代謝マーカー検討委員会：骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイドライン 2012年版.

新規項目 (1228 I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)) と  
既存項目 (1217 I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P I NP)) の 比較

